

基盤整備を契機としたブロッコリーの一大産地化 (長崎県雲仙市山田原第2地区)

【取組内容】

基盤整備を契機として、土地改良区、県、市、JAなどの関係機関が一体となってブロッコリーの産地化に取り組み、真空予冷装置や製氷機、自動選別機を備えた総合出荷場が整備されたことで、消費者に届くまで品質が保持できるようになり、市場からの高い評価に繋がっている。

このような取組により、令和5(2023)年度「農業農村整備優良地区コンクール」で農林水産大臣賞を受賞している。

【取組に至った経緯】

本地区は、島原半島の北西部に位置し、県内でも有数の農業地帯として発展してきた。

しかし、近年では高齢化や後継者不足により、農家数の減少や耕作放棄地の増加が課題となっていた。このため、地域農業の衰退に歯止めをかけ、維持・発展することを目的として基盤整備に取り組むとともに、かん水作業など栽培に労力を要するため一部の農家のみで生産されていた「ブロッコリー」の産地化を目指すこととした。

【取り組む際に生じた課題と対応】

農地は狭小不整形で、道排水路や畑かん施設も未整備であったため、営農効率が悪く担い手の経営規模拡大に支障を来していた。このため、平成24(2012)年度～令和3(2021)年度にかけて畑地帯総合整備事業で55haを整備した。

また、並行して地域内に総合出荷場が整備され、氷を詰めて出荷を行うことで、品質を保持することが可能となり関西等の大消費地までの販路拡大を実現した。

【取組の成果】

・大型機械の導入、定植作業の機械化を実現。また、畑かん施設の整備により散水の省力化が図られ、令和4年のブロッコリーの作付面積は整備前(平成24年)と比較して27haから76ha(約2.8倍)と大幅に増加した。

・本地区の取組と併せ、JA雲仙ブロッコリー部会の販売高も年々増加し、令和4年度には目標であった「10億円」を達成した。

・担い手への農地集積が進み、経営の安定化が図られ、快適で儲かる農業が確立されたことで、後継者も育っており、祖父から孫へと継承する「孫ターン」が起こるなど、「魅力ある就農の場」として若い世代を惹きつけている。

【今後の展開】

周辺地域で実施中の基盤整備と併せ、ブロッコリーの一大産地形成を加速化するとともに、次世代へ活力ある地域農業の継承を進めていく。



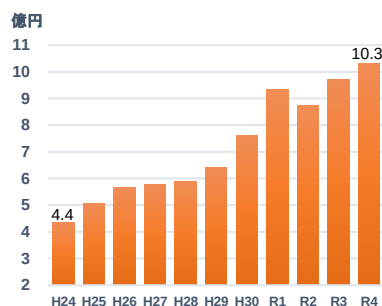
【総合出荷場での氷詰め状況】



【整備前】



【整備後】



【ブロッコリーの販売高】



【若手就農者の定着】

国営かんがい排水事業 沖永良部地区 (鹿児島県大島郡和泊町、知名町)

沖永良部島は、鹿児島県の奄美群島に属し、鹿児島市から南へ約500km、周囲約55.8km、面積93.65km²の離島である。

本地区は、沖永良部島内の2町（大島郡和泊町、同郡知名町）にまたがる1,497haの畑地帯を受益とし、島内の畑地の約3分の1の面積にあたる。

主要作物であるさとうきび、ばれいしょ（じゃがいも）、スプレイぎく、ゆり等の作付面積及び収穫量は、県内市町村別順位の上位を占め、日本一早い新じゃが「春のささやき」や、テッポウユリの産地であるなど、県内有数の農業地帯となっている。



しかしながら、本地区は、珊瑚礁が隆起して形成された多孔質な地質で水が浸透しやすいため、河川などの水源が乏しく、雨水等に依存しており、農業用水の確保が困難であることや、台風の常襲地帯であることから、不安定な農業経営を余儀なくされてきた。

このため、本事業では、新たな水源として沖永良部地下ダムを築造するとともに、揚水機、用水路等の基幹施設を整備し、併せて関連事業により末端のかんがい施設の整備及び区画整理を実施することにより、安定的な用水の確保を図り、農業生産性の向上と農業経営の安定を図ることとしている。

事業は平成19(2019)年度に着工し、平成26(2014)年度より一部水利用を開始した。国営事業は令和7(2025)年3月末までに地下ダムを始め基幹施設の工事をほぼ終えており、関連事業による末端施設整備も区画整理が全て完了、畑かん施設も令和8(2026)年度に完了予定として、すでに給水栓の整備が全体の80%まで進んでいる。

水利用は順次拡大され、地下ダムの水を利用した営農が展開されており、農業経営に欠かせない施設として定着し、奄美群島の中でも特に花き、野菜等の生産額が大きく、他の地域に差をつけるなど、着実に効果が発現している。また、台風通過後の除塩にも利用され、作物の塩害対策に役立っている。

近年では、テッポウユリで初となる八重咲き品種「咲八姫」の育成に成功し、令和4(2022)年度の最も優れた花きを選ぶコンテスト「ジャパンフラワーセレクション(JFS)」にてフラワー・オブ・ザ・イヤー（最優秀賞）に選ばれるなど、明るい話題も多い。

沖永良部島は、離島としての運送・流通面での制約や、台風などの厳しい気象条件もあるが、一方で温暖な気候や優良な農地など、農業生産のためには恵まれた条件も多い。

また、他の地域と同様に人口減少と高齢化は進む中에서도、高い出生率など地域社会が発展するための可能性も多く秘めている。

今後、地下ダムの水が十分に活用され、地域農業が飛躍してゆくことが期待される。

